

第Ⅱ章 スポーツ推進施策の展開

第1節 生涯スポーツの推進

- (1) ニュースポーツ・コミュニティスポーツの充実
- (2) 子どものスポーツ機会創出と体力の向上
- (3) 働く世代、子育て世代のスポーツ活動の促進
- (4) 高齢者スポーツの活動支援
- (5) 総合型地域スポーツクラブの育成

第2節 スポーツ活動の推進

- (1) 継続した指導活動への支援
- (2) 選手の育成強化と活動支援
- (3) 学校部活動の地域移行に向けた体制整備

第3節 スポーツ環境づくりの推進

- (1) 情報発信の強化と社会体育施設の利便性向上
- (2) 体育施設の適正な管理
- (3) 共生社会の実現に向けた取り組み
- (4) スポーツを通じた地域活性化

第Ⅱ章 スポーツ推進施策の展開

第1節 生涯スポーツの推進



あらゆるライフステージでスポーツをする習慣を身につけることで、健康と心身のバランスを維持するだけでなく社会性や楽しさ、自己実現など、多岐にわたる効果を享受し、生き生きと生活を送ることができる社会の実現を目指します。

(1) ニュースポーツ・コミュニティスポーツの充実

◇現状と課題

近年の健康志向の高まりにより、誰でも気軽に楽しめるニュースポーツやコミュニティスポーツの推進が求められています。子どもから高齢者まで、誰もが簡単に楽しめるのが特徴で、運動不足や健康の保持増進を目的に多くの方々に親しまれています。

市では、スポーツ推進委員会を中心に様々な種目の紹介や、出前講座による指導を行っていますが、市民のスポーツ参加意欲をより高めるとともに、健康的な生活習慣の形成と、希薄になりつつある地域コミュニティの活性化に向けた取り組みが必要です。

◇到達目標

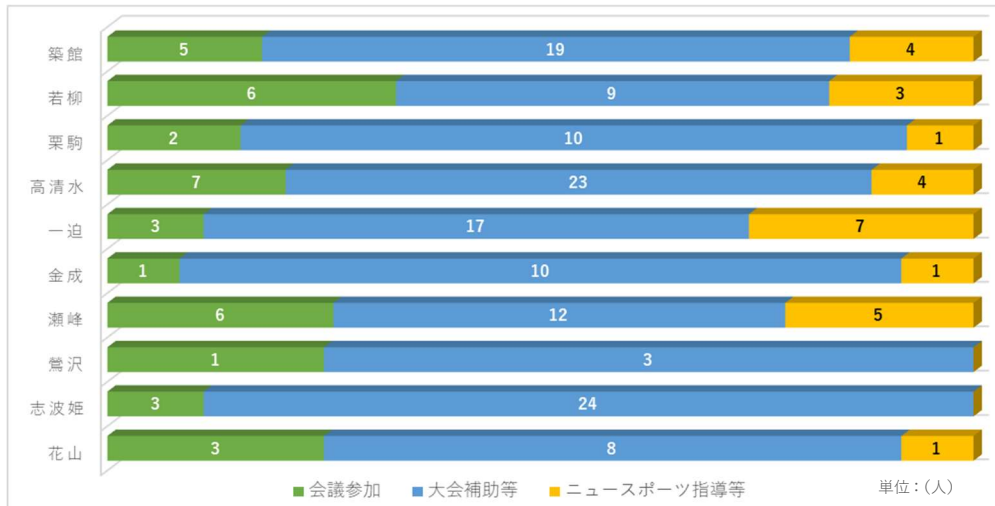
- ・ スポーツ文化の創造と普及
- ・ スポーツを通じた健康的な生活習慣の定着
- ・ 地域コミュニティの活性化
- ・ ニュースポーツ教室・イベント開催などのスポーツ機会の創出
- ・ 地域スポーツ活動の中心となる指導者の育成

◇具体的な取り組みと施策展開

- ・ 親子や世代間スポーツイベントの開催と仲間づくりの支援
- ・ ニュースポーツ用具の充実と利用促進
- ・ 「い・ど・う市民セミナー」等を活用したニュースポーツの普及促進
- ・ スポーツ推進委員会によるニュースポーツ指導機会の拡充
- ・ スポーツリーダーを活用した地域スポーツ活動の活性化

【市スポーツ推進委員会活動状況】

〔資料：令和元年度 コロナ禍前の活動実績〕



(2) 子どものスポーツ機会創出と体力の向上

◇現状と課題

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果、市内の児童生徒の体力レベルは、一部の種目では全国や宮城県の平均を上回りましたが、全体的な平均値には及びませんでした。さらに、過去のデータとの比較から、運動能力の低下傾向が明らかになっています。また、肥満傾向児の出現率も全国の水準を上回っており、男女を問わずその傾向が顕著に現れています。

子どもを取り巻く生活環境の変化により、運動や外遊びの時間、空間、仲間が減少しており、運動をする子どもとしない子どもの二極化が進んでいます。体力レベルの低下に歯止めをかけるとともに、健康づくりや生涯にわたりスポーツを楽しむ基盤をつくるため、子どもの頃から様々なスポーツに触れる機会を創出する必要があります。

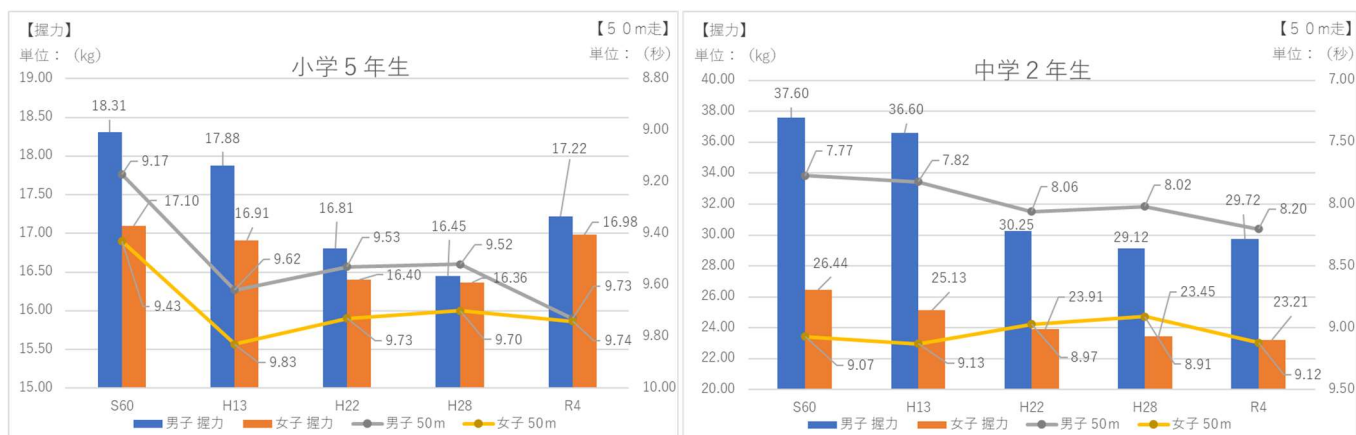
◇到達目標

- ・ 初めてスポーツに触れる機会の創出
- ・ 幼・少年期からの運動やスポーツ教室の開催
- ・ スポーツ少年団の活動支援、組織強化及び加入率の向上
- ・ 子どもの体力・運動能力の向上と肥満傾向児出現率の低減
- ・ 小・中学校のクラブ活動など教科体育以外におけるスポーツ機会の創出
- ・ 少年期のスポーツ選択肢の拡大

◇具体的な取り組みと施策の展開

- ・ 幼児期からの運動の必要性の啓発
- ・ 保育所や幼稚園、放課後児童クラブとの連携による遊びをとおしたスポーツの体験
- ・ スポーツ団体が開催する体験会の支援
- ・ 各スポーツ種目における普及事業開催

【県内小・中学生体力調査】



〔資料：宮城県教育庁保健体育安全課〕

(3) 働く世代、子育て世代のスポーツ活動の促進

◇現状と課題

令和3年度に実施した市民の運動・スポーツに関するアンケート調査の結果では、男女とも20歳代から50歳代が「週1日以上運動やスポーツを実施する」と回答した割合は、他の年代と比較して低くなっています。この年代は、現代社会における働く世代や子育て世代の中心であり、スポーツを実施したくても時間的制約などにより、実施しにくい現状が伺えます。それぞれのライフスタイルに応じたスポーツ習慣の定着を目指し、環境整備と支援が必要です。

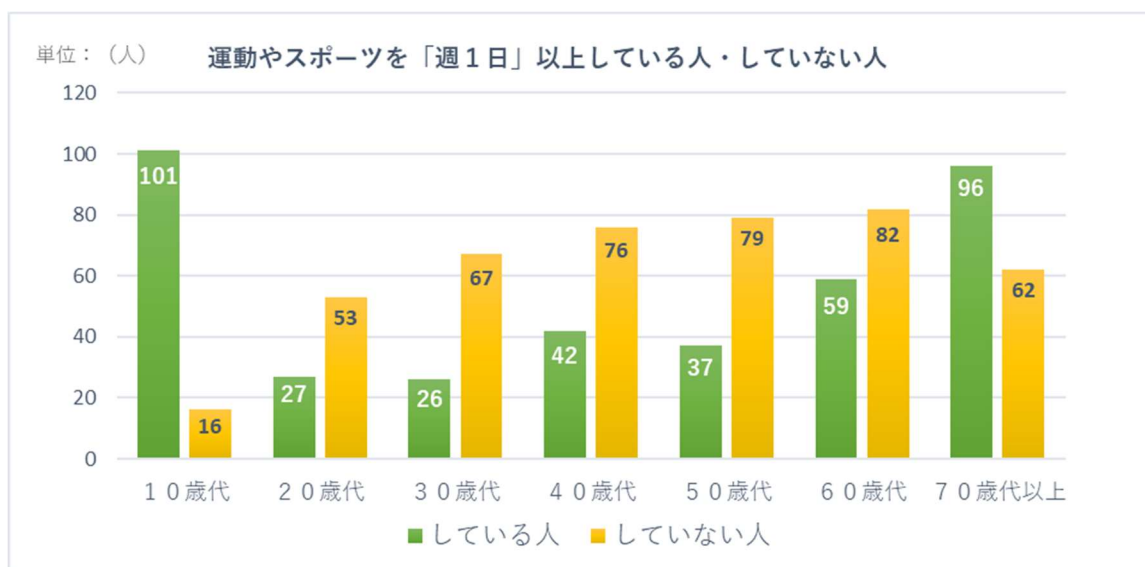
◇到達目標

- ・ ライフスタイルに応じたスポーツ習慣の定着
- ・ 生活習慣病の改善及びメンタルヘルスの保持増進
- ・ 20歳代から50歳代の運動やスポーツ実施率の向上

◇具体的な取り組みと施策展開

- ・ 多様化するライフスタイルやニーズに応じ、継続したスポーツ機会の提供
- ・ 親子で参加できるレクリエーション、スポーツ教室を開催し、育児中でもスポーツができる機会の創出
- ・ 美容と健康を目的としたフィットネススポーツ事業の開催
- ・ 仕事の合間や休日におけるトレーニング施設等の利用促進

【年代別スポーツ実施率】



〔資料：市民の運動・スポーツに関するアンケート調査：R3年代別〕

(4) 高齢者スポーツの活動支援

◇現状と課題

令和3年度に実施した市民の運動・スポーツに関するアンケート調査の結果では、70歳代が「週1日以上運動やスポーツを実施する」と回答した割合は、他の年代と比較して高くなっています。これは、健康志向の高まりによって、時間や場所に制限なく行えるウォーキングなど、気軽に続けられる運動が定着しているものと言えます。

今後、スポーツを通じた健康保持増進を図るとともに、生きがいつくりに繋がるよう、安全で楽しく運動できる環境整備を進め、健康長寿社会の実現を目指す必要があります。

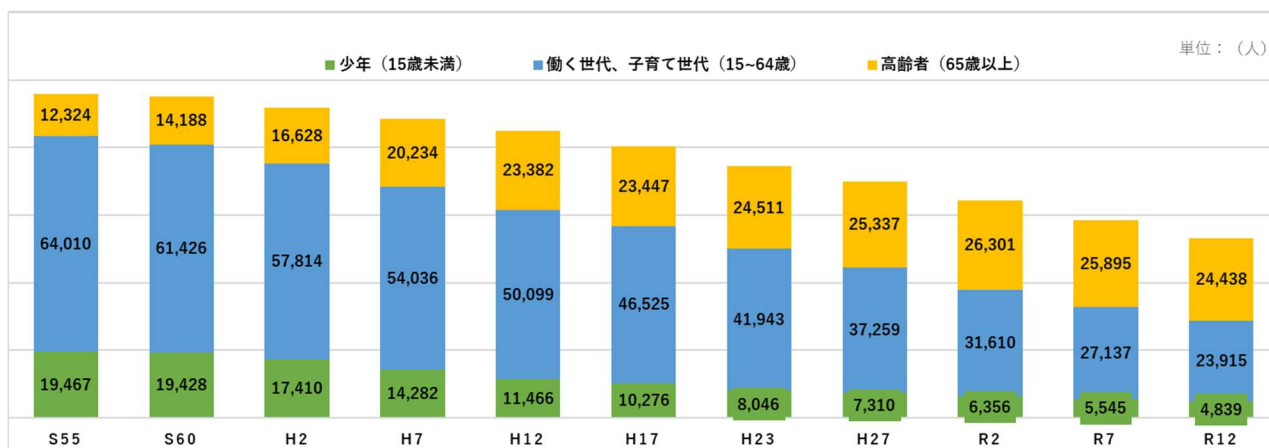
◇到達目標

- ・ 健康増進のための教室・講座や定期的な体力測定の実施
- ・ 高齢者スポーツ教室・体操教室、競技大会等の参加支援
- ・ スポーツを通じた生きがいつくりの啓発と社会参加への支援
- ・ スポーツ実施率の向上を通じて健康寿命の延伸に貢献

◇具体的な取り組みと施策展開

- ・ 「ねんりんピック」等競技大会への積極的参加を促進し、競技と交流を通じた健康づくりと生きがいつくりの推進
- ・ 保健福祉事業や社会福祉関係団体との連携による健康づくりと高齢者相互の交流
- ・ 高齢者が憩い集えるパークゴルフ場などの施設や設備の充実
- ・ ウォーキングイベントなどの開催

【人口の推移（年齢構成別）】



〔資料：「第2次栗原市総合計画」人口推移見込み〕

(5) 総合型地域スポーツクラブの育成

◇現状と課題

誰もがスポーツに参画し、スポーツの価値を体感できる社会を実現するため「総合型地域スポーツクラブ」の創設が全国で進められてきました。

総合型地域スポーツクラブは、これまでの学校、企業、スポーツ団体、行政に多くを依存してきた地域スポーツ推進の在り方を見直し、自分たちの手でスポーツ文化を育て、地域に根付かせていくシステムに変えていくものです。

市内では、平成16年に「しわひめスポーツクラブ」、平成24年に「わかやなぎスポーツクラブ」が創設されました。今後、学校部活動の地域移行※4を進めていくにあたり、指導者の確保や育成の役割にも期待がかかっており、引き続き各地区でのスポーツクラブ創設支援や、既存クラブへの支援継続が必要です。

◇到達目標

- ・ スポーツクラブによる地域活性化を目指したスポーツ教室やイベントの開催
- ・ コミュニティをつないだ広域的なネットワークの構築
- ・ 総合型地域スポーツクラブの創設及び育成に関する支援

◇具体的な取り組みと施策展開

- ・ 総合型地域スポーツクラブ設立検討会の開催
- ・ 学校部活動の地域移行に向けた指導者の確保と育成
- ・ クラブマネージャーの育成支援や専門性を生かしたスポーツセミナーの開催支援
- ・ 地域コミュニティ、スポーツ推進委員、スポーツ団体などと連携したスポーツ教室・イベントの開催

【市内スポーツクラブ設立状況】

名称	設立年月	会員数	主な活動
しわひめスポーツクラブ	平成16年3月	452人	各種スポーツセミナー、各種スポーツ事業・大会、スポーツ講習会・研修会、健康・体力相談、広報誌発行
わかやなぎスポーツクラブ	平成24年3月	169人	各種健康増進スポーツ事業、スポーツ講習会、スポーツ観戦、運動会協力

[資料：令和4年度クラブ総会資料]

※4「学校部活動の地域移行」

→ 公立中学校において、学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により、新たに地域クラブ活動を整備する部活動改革をいう。

令和5年度から令和7年度までの3年間を「改革推進期間」として、地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて早期の実現を目指すもの。

第2節 スポーツ活動の推進



選手、指導者、それを支える者が、それぞれの立場で情熱を持って取り組む姿勢は、人々に希望と勇気を与え、共感と連帯の精神を育みます。スポーツ活動の土台をしっかりと築くことは、市民が誇りを持って活動するために不可欠であり、スポーツが持つ可能性と魅力を最大限に引き出しつつ、豊かなスポーツ文化を形成していくために重要です。

(1) 継続した指導活動への支援

◇現状と課題

子どもたちのスポーツ活動は、スポーツ少年団や学校部活動が中心となっています。しかし、少子化による部員の減少や指導者不足により、地域や競技団体によっては、運営や活動の維持が困難になってきており、競技スポーツ活動の弱体化が進行しています。子どもたちの競技スポーツを維持する地域の受け皿として、活動拠点の整備と組織体制の構築が急務であり、今後、学校部活動の地域移行を推進していくにあたって、専門知識や高い技術に加え、コミュニケーション能力やリーダーシップなど、様々な要素を兼ね備えた質の高い指導者を確保していく必要があります。

そのため、実践的な指導者養成プログラムの構築や指導者同士の交流会・研修会の開催など、学校、地域、スポーツ団体との連携・協働のもと、子どもたちが安心してスポーツに取り組んでいける環境を確保していかなければなりません。

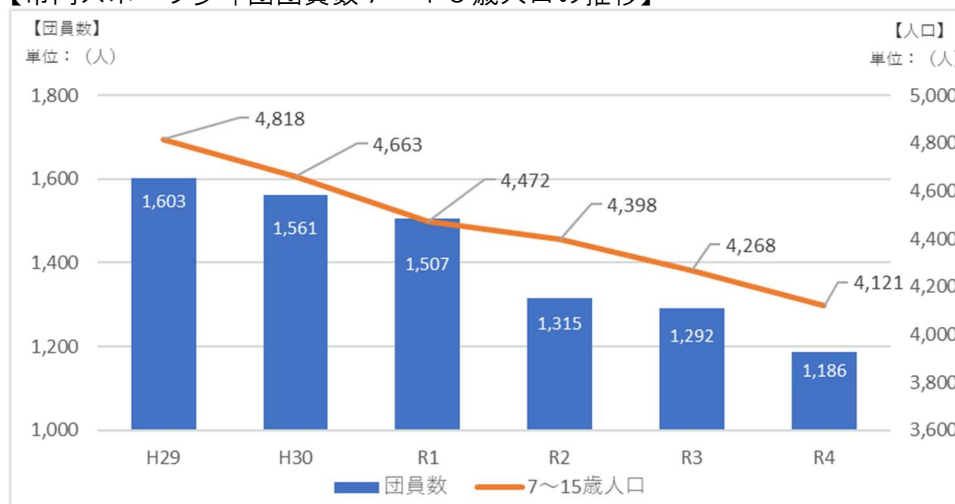
◇到達目標

- ・ 学校、地域、スポーツ団体が連携した指導体制の構築
- ・ 資質や能力を有する指導者の確保と育成
- ・ スポーツ教室や大会の開催支援

◇具体的な取り組みと施策展開

- ・ 公益財団法人日本スポーツ協会（以下「JSPO」という。）公認スポーツ指導者養成講習会等への参加支援
- ・ JSPO公認スポーツ指導者等資格更新に係る支援
- ・ 新しいスポーツ技術や知識を提供するセミナーや交流会の開催
- ・ 指導者間の交流会の開催

【市内スポーツ少年団団員数7～15歳人口の推移】



【資料：住民基本台帳登録人口並びに市スポーツ少年団登録状況】

(2) 選手の育成強化と活動支援

◇現状と課題

これまで、市内の選手の中から、県内のトップ選手たちとの激しい競争を乗り越え、数々の全国大会で活躍する優れた選手たちを輩出し、その才能を開花させてきました。

これらの功績の裏には、競技人口や熱心な指導者など、恵まれたスポーツ環境は欠かせませんが、近年、各競技団体においては、チームの編成すら困難になっています。また、指導者不足により、本人が求める指導を受けられず、スポーツに取り組むことを途中で諦めたり、離れてしまったりするなど、将来性に満ちた才能の芽を摘んでしまうことになりかねません。

そのため、選手個々の資質や能力の発掘からアスリート育成まで、一貫した強化体制の構築が必要です。

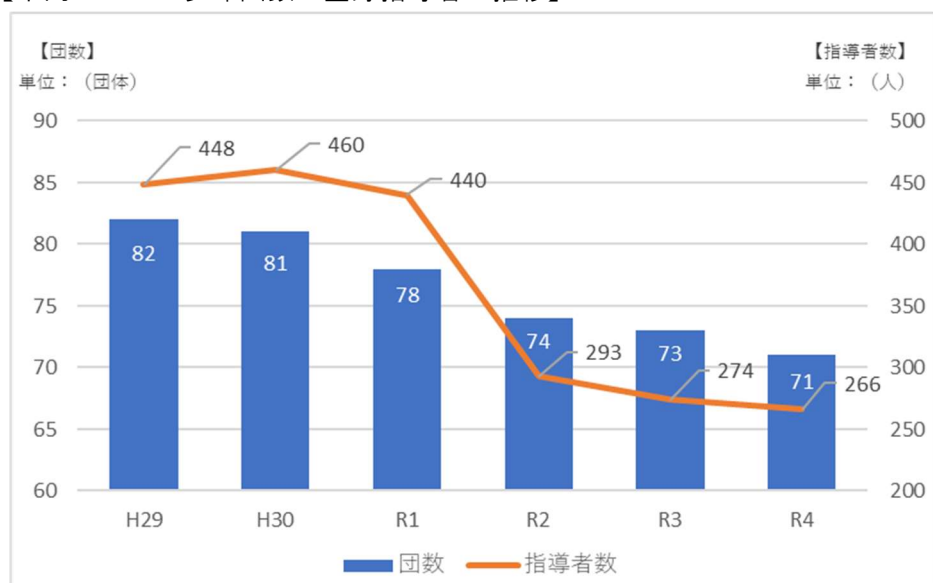
◇到達目標

- ・ ジュニア期から一般まで一貫した強化体制の構築
- ・ トップレベルの競技者が集中して競技に取り組むことのできる環境の構築
- ・ 全国大会や国際大会等で活躍する市出身選手の育成支援

◇具体的な取り組みと施策展開

- ・ 各種団体で選抜された選手による強化練習会等の実施
- ・ スポーツ団体における育成プログラム等への参加促進
- ・ 各小・中・高校及び競技団体と連携を図り、強化合宿や合同練習会の開催
- ・ プロ・トップスポーツチーム等との交流機会の提供
- ・ 全国大会等への参加経費に対する助成の継続
(「目指せ！日本一」スポーツ推進事業)
- ・ 優秀な成績者への強化活動に対する助成の継続
(「やったね！日本一」スポーツ推進事業)

【市内スポーツ少年団数と登録指導者の推移】



【資料：市スポーツ少年団登録状況】

(3) 学校部活動の地域移行に向けた体制整備

◇現状と課題

中学校部活動については、生徒数の減少によりチーム編成が困難なため、大会に参加することができないなど、集団活動への影響が見られ始めています。市では、これまで競技経験のない教員が顧問になっている場合など、十分な技術的指導を行うため「外部指導者登録制度」による「外部指導者」の任用や部活動指導にあたる時間の確保が困難になっている教員に代わり、大会への引率を行うことができる「部活動指導員」の制度導入を検討してきました。

令和4年12月にスポーツ庁及び文化庁は、少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、「学校部活動及び新たな地域活動の在り方に関するガイドライン」を策定し、休日の公立中学校の部活動を地域活動へ移行する方向性を示しました。また、県においても、国のガイドラインを受け、令和5年3月に、「学校部活動と地域のクラブ活動等のガイドライン」を策定し、今後の部活動及び地域クラブ活動の在り方を示しました。

市では、国及び県が示すガイドラインを踏まえ、まず、休日の学校部活動を地域活動に移行することを念頭に、スポーツ団体などの関係団体と協議会を設置し、地域の実情を考慮しながら、運営や実施方法など、その方向性を十分に検討します。

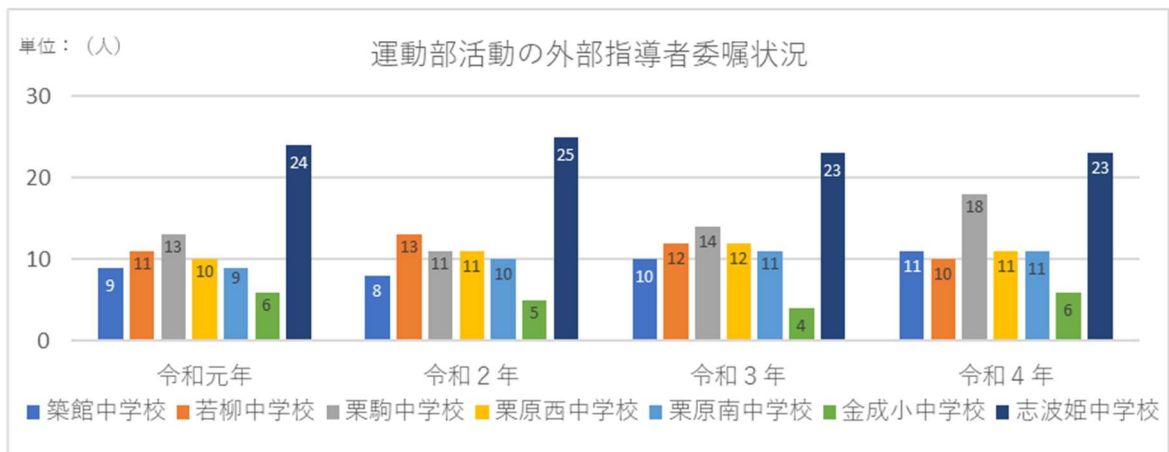
◇到達目標

- ・ 学校と地域が協働・連携したスポーツ環境の構築
- ・ 生徒が自主的に参加できる安全・安心な活動環境の構築
- ・ 地域クラブ活動を通じた地域活性化
- ・ アスリートを目指す生徒への高い専門技術指導体制の構築

◇具体的な取り組みと施策展開

- ・ 「部活動指導員」の導入検討及び「外部指導者登録制度」の活用促進
- ・ 学校部活動の地域移行に向けた協議会の設置及び方向性の検討
- ・ J S P O公認スポーツ指導者養成講習会参加支援
- ・ スポーツ少年団やスポーツクラブなどのスポーツ団体との緊密な連携
- ・ スポーツ指導者の適切な評価と指導者養成プログラムの整備

【運動部活動の外部指導者委嘱状況】



〔資料：学校教育課調べ〕

第3節 スポーツ環境づくりの推進



誰もがスポーツに参加しやすい機会の創出と環境づくりには、「スポーツ機会の提供」、「指導者の確保」、「安全なスポーツ施設の持続的な提供」、「多様性の対応（性別や年齢、障害の有無）」など、多角的な視点から課題を捉え、総合的な解決策を見出していくことが重要です。少子高齢化が進むなか、社会の変化に合わせてスポーツのニーズも常に変化しており、活動基盤となる施設もまた、人口減少に伴い、量や質を見直す時期に差し掛かっています。これらの課題解決に向けて、地域に精通するスポーツ関係団体と連携しながら、スポーツを楽しむ人々の多様なニーズに応じた取り組みと計画的なスポーツ環境の整備が必要です。

（1）情報発信の強化と社会体育施設の利便性向上

◇現状と課題

市民一人ひとりの「運動・スポーツ実施率」は、健康志向の高まりによって増加しているものの、一方ではスポーツ関係団体が実施するスポーツイベントや教室などの参加率は低い状況です。誰もがもっと気軽に参加できる環境を創出するため、情報発信の強化が課題となっています。また、ウェブサイトを活用した施設予約や利用手続きの簡素化など、利便性を高める手法についても検討が必要です。

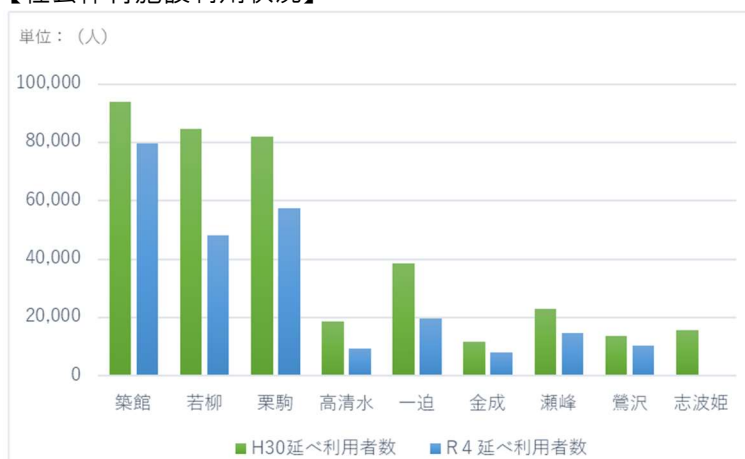
◇到達目標

- ・ 多様なスポーツ教室、レクリエーション事業等の企画、情報発信の促進
- ・ 市民のニーズに応じた施設の利用予約や利用手続きの簡素化
- ・ 指定管理者制度などを導入した効果的・効率的な管理体制の見直し
- ・ ウェブサイト等を活用した体育施設の利便性向上
- ・ 社会教育関係団体、学校体育施設利用者団体制度の有効活用

◇具体的な取り組みと施策展開

- ・ ウェブサイトを活用したスポーツイベントや教室の情報発信
- ・ 予約情報共有による施設利用効率化
- ・ 社会教育関係団体に登録して活動するメリットや学校体育施設の利用方法の周知
- ・ 時間や場所にとらわれないオンライン教室等の開催検討
- ・ 市、スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ等の定期的な情報交換や情報共有

【社会体育施設利用状況】



(2) 体育施設の適正な管理

◇現状と課題

近年、スポーツ施設の老朽化や管理不足によって、プール排水設備や体育館のフローリングの劣化に起因した重大事故について事例報告がありました。スポーツ施設は、常に健全な状態を保ち、安全な施設を提供しなければなりません。特殊設備を使用することが多く、故障の際には多額の費用負担が発生するため、今後、同様のサービスを持続的に提供することが困難となる見通しです。また、世界的な原料や資材、エネルギー価格の急激な高騰も相まって、施設運営に大きな影響を及ぼしており、今後、市で策定した「市公共施設最適化計画」に基づきながら、長期的な視点で市体育施設全体の在り方を検討していく必要があります。

◇到達目標

- ・ 安全性や利便性を維持した施設の提供
- ・ 市公共施設最適化計画に基づいた効果的で効率的な管理運営
- ・ エネルギー効率の改善
- ・ 高齢者や障害のある方でも利用しやすい施設環境の整備

◇具体的な取り組みと施策展開

- ・ 人口動態や市民ニーズの変化を踏まえた体育施設の規模適正化や統廃合の検討
- ・ 安全に利用できる環境の整備、施設の計画的な修繕や更新
- ・ 体育施設個別施設計画（長寿命化計画）の策定
- ・ 体育施設照明のLED化を促進するなど、ランニングコストの削減
- ・ 高齢者や障害のある方に対応した施設のバリアフリー化の促進
- ・ 和式トイレを洋式化し、利便性の向上と衛生環境の改善
- ・ 新しいスポーツ（アーバンスポーツ※5やeスポーツ※6など）に対応する環境整備の検討

【学校体育施設利用状況】



〔資料：社会教育課調べ〕

※5 「アーバンスポーツ」

→ スケートボード、BMX、パルクールなど都市型スポーツをいう。

「eスポーツ」

→※6 「エレクトロニック・スポーツ」の略で、コンピューターゲームやビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称のこと。

(3) 共生社会の実現に向けた取り組み

◇現状と課題

東京2020大会は、多くの国民に勇気と感動を与え、改めてスポーツの価値を再認識する機会となりました。大会のレガシーのひとつとして、オリンピックを契機とした共生社会の実現が挙げられており、世界的に理解・関心が高まっています。性別や年齢、障害の有無等に関わらず、多様な主体がスポーツに参画できる環境が求められており、女性のスポーツ実施率向上や、障害者スポーツの推進体制充実などが今後取り組むべき課題として注目されています。

東京2020大会開催にあたり、市においては、国境を越えた事前キャンプ誘致を推進しました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、最終的な実現には至りませんでした。得られたノウハウを今後のスポーツ推進に生かすことが重要です。

このような状況の中、特に障害者スポーツへの支援体制が非常に脆弱であることから、施設設備面の環境整備はもちろんのこと、障害者スポーツに触れる機会を創出する必要があります。

◇到達目標

- ・ 東京2020大会を契機とし、スポーツに参加する市民の増加
- ・ 共生社会への理解・関心の高まりを生かし、継続したスポーツ交流の推進
- ・ 障害者スポーツの活動機会の提供と環境整備
- ・ 女性のスポーツ実施率向上
- ・ スポーツボランティア団体等の育成

◇具体的な取り組みと施策展開

- ・ 共生社会を意識したイベントやスポーツ大会の開催
- ・ 国外チームとの交流イベントなど、国の枠を越えたスポーツ交流
- ・ 美容と健康を目的としたフィットネススポーツ事業の開催
- ・ 各種スポーツ大会運営におけるボランティアの実践

【第8回ハーフマラソン大会ボランティア活動状況】

協力団体	協力人数	活動内容
築館高等学校	125	計測タグ回収、完走証配布、給水所、会場、選手招集、参加賞配布、交通整理、環境衛生
若柳地区内行政区	60	
栗原市スポーツ協会	20	
栗原市連合婦人会	10	
栗原市スポーツ推進委員	22	
	237	

【第52回全日本中学生ホッケー選手権大会ボランティア活動状況】

協力団体	協力人数	活動内容
市内中学生・高校生	54	記録回収、得点板、チーム関係者誘導、弁当配布、会場消毒、散水、駐車場整理、ボールパトロール
宮城クラブ（地域ホッケー競技団体）	20	
栗原市スポーツ推進委員	19	
中学校ホッケー部親の会	24	
	117	

(4) スポーツを通じた地域活性化

◇現状と課題

国では、東京2020大会後のスポーツ機運の高まりを一過性のものとしなため、スポーツを起点とした観光など、地域活性化への取り組みを一層推進していくこととしています。

市においても、栗原ハーフマラソン大会をはじめとした市主催事業のほか、市スポーツ協会や各種スポーツ団体により、様々な大会・スポーツイベントが開催されており、市内外から多くの参加者が訪れています。

一方、国内各地に趣向を凝らした事業が存在することで、大会・イベントは人々から選ばれる時代となっており、内容によっては参加者数が大きく変動することもあります。多くの人に選ばれる魅力ある事業を実施するため、創意工夫が求められます。また、恵まれた自然環境と充実した施設、助成制度などを広くPRし、人の流れを取り込む事業を推進する必要があります。

◇到達目標

- ・ 栗原ハーフマラソン大会をはじめとする各種大会の充実
- ・ プロスポーツ選手等による教室や交流の場の提供
- ・ トップアスリートが参加する合宿誘致（みる機会の提供）
- ・ オンラインによるトップアスリートとの交流
- ・ 市外スポーツ団体や学校の合宿地誘致
- ・ 武道を通じたイベントの開催
- ・ スポーツイベントや施設運営における環境保全に配慮した取り組み
- ・ 市民のニーズに応じた新たなスポーツ機会の創出

◇具体的な取り組みと施策展開

- ・ 参加者からのアンケート等により、運営を分析し改善を図る
- ・ SNSを活用した情報の発信
- ・ 大学や企業へのPR活動
- ・ 合宿補助制度・施設の充実を含めた当市のPR活動推進
- ・ 地域企業との連携によるネーミングライツ事業
- ・ 武道を通じたイベント等の開催検討
- ・ 自然との共存を楽しみ、環境保全を取り入れたスポーツ事業の実施
- ・ DXを活用したスポーツイベント等の実施検討

【トップアスリート等と交流事業開催状況】

(平成30年度～令和4年度)

アスリート	種目	主催	概要
高橋 千恵美 (シドニー五輪10000m出場)	陸上	・栗原市・栗原市教育委員会 ・栗原市陸上競技協会	栗原ハーフマラソン大会ゲストランナー
ウルフドックス名古屋 (旧豊田合成トレフェルサ)	バレーボール	・ウルフドックス名古屋 ・栗原市教育委員会	バレーボール教室 (小学生・中学生)
山崎 武司 (元プロ野球選手)	野球	・市・栗原市教育委員会・山崎武司クラブ	山崎武司杯少年野球選抜大会
ホッケー男子3か国親善試合	ホッケー	・公益社団法人 日本ホッケー協会	2020東京オリンピックに出場する日本代表チーム、カナダ代表チーム、ドイツU23代表チームの親善試合
栗原市ホッケー競技国際交流事業	ホッケー	・栗原市・栗原市教育委員会	ブッシュレンジャーズ (オーストラリア・ニューサウスウェールズ州) 中学生・高校生世代と交流試合
青島 大輔 (TOKYO2020メディカルサービス (バスケット競技) 釜山、アテネ、トリノ、北京オリンピックプロジェクトメンバー)	バスケット	・栗原市体育協会 ・栗原市スポーツ少年団	演題【そうだったのか！スポーツ指導者に知って欲しい身体の整え方】
古賀 稔彦 (バルセロナオリンピック優勝)	柔道	・栗原市スポーツ協会	演題【挑戦することの大切さ】